

平成28年12月 日

門真市教育委員会 様

門真市幼児教育振興検討委員会  
委員長 吉岡 眞知子

## 門真市就学前教育・保育共通カリキュラム策定に関する意見について

平成28年度は全4回にわたり門真市幼児教育振興検討委員会（以下、「審議会」という。）を開催し、門真市就学前教育・保育共通カリキュラム（以下、「カリキュラム」という。）（素案）について慎重に審議を重ねました。ここに、審議会としての意見をまとめましたので、これらの意見を今後の策定過程において十分に反映されるよう要望します。

### 記

#### 1. カリキュラム策定の意義について

国の動きや門真市の関連計画との関係を含め、これまで審議を行ってきた素案の内容を十分に理解し、カリキュラムを策定する意義を十分に確認された上で検討を行われたい。

#### 2. 基本理念について

カリキュラムの基本理念「未来をひらく子どもを育てる」については、就学前教育・保育から小学校教育への連続性を意識し、さらに、教育基本法に規定する教育の目的である「人格の完成」を目指すことを念頭に置いたものであることを強く認識されたい。

#### 3. めざす子ども像について

カリキュラムのめざす子ども像「思いを伝えつながる子ども」は、門真市の子どもに育てたい力が「人とつながる力」や「伝え合う力」であり、これからの門真市の就学前教育・保育が目指すべき姿であることを強く認識されたい。

#### 4. カリキュラムの対象となる子どもについて

就学前教育・保育の対象が、多様な個性を持ち、また、多様な環境で育つ子どもたちであることを認識し、共生の視点を大切にした内容及び表現となるよう十分に配慮されたい。

#### 5. 5領域について

幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領に規定する「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」及び「表現」の5領域については、相互に関連を持ちながら、総合的に展開されるものであることを十分に意識し、5領域のねらい及び内容が偏ることなくカリキュラムに盛り込まれるよう留意されたい。

#### 6. 各年齢のつながりの整合性について

年齢ごとの発達を踏まえたうえで、各年齢間のつながりの整合性が図られるよう、慎重に検討を行われたい。

#### 7. 小学校との接続について

誕生時から小学校就学前までの各年齢区分については、スロープ状の発達としてとらえ、その延長線上に小学校教育が連続して接続することを意識されたい。